

花

特集

コロナ禍に 立ち向かう学生へ

～学生の未来と大学のサポート～

基金関係のお知らせ／Campus Information

いま
新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2020.SUMMER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No.

33

コロナ禍に立ち向かう学生へ

～学生の未来と大学のサポート～

～学生の未来と大学のサポート～

コロナ禍
今後の展望と
新潟大学の現状

おそらく2年ほど続くことになります。それまでは、うまくコントロールできたとしても、感染の小さな波の繰り返しが続くのではないかと思います。あるいは対策を間違えれば、今より大きな第2波、第3波が訪れることが想像されてしまふ。いつまた感染者が増加すると限らない、新潟においてもそんな状況にあるといえるでしょう」と語るのは新潟大学の牛木辰男学長だ。

「まず、世界の研究者や専門家、医療関係者は、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの実用化に最低でも12ヶ月以上必要と考えています。つまりこのコロナ禍は最低1年、

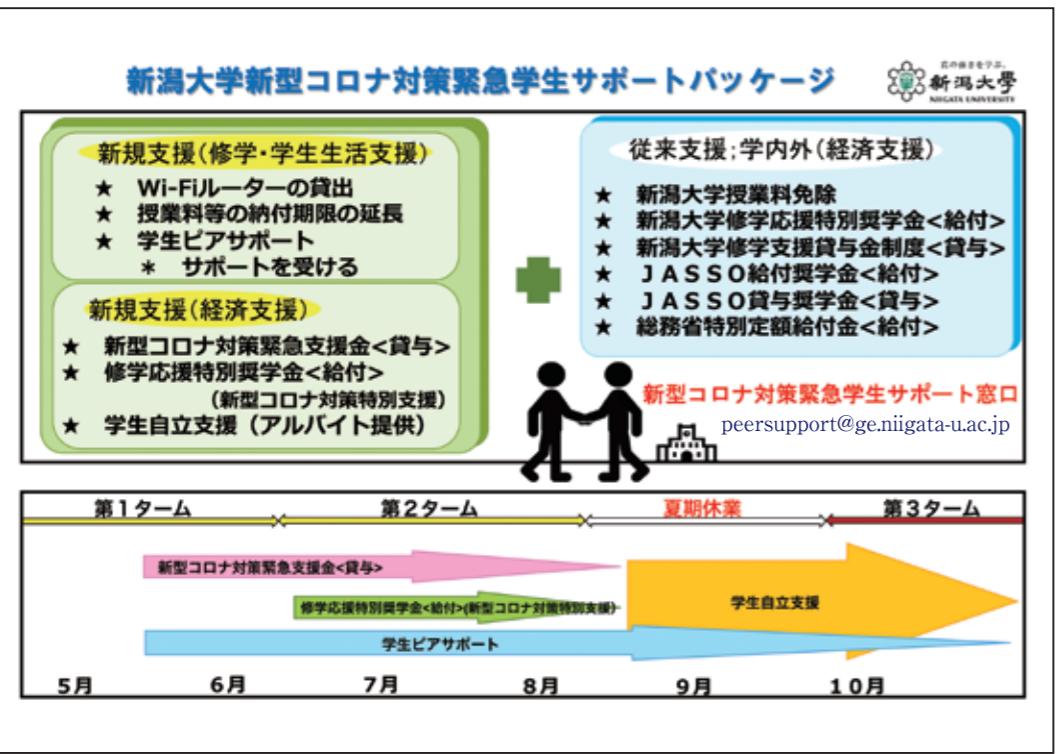


停止を少し緩めて一部を条件付きで解除している。未曽有の状況下に

おいて、新潟大学の学生たちはどのような不安や問題を抱えているのか。そして、新潟大学は彼らをどのように支え、「丸となって難局を乗り越えよう」と向かっているのか。

新潟大学による 学生のための 新しい支援

感染拡大の長期化が予想されるなか、まず懸念されるのが学生の



経済的な問題だ。アルバイトで稼ぎなくなったり、家庭の急激な収入減などの理由で、学費の納入や生活費の確保が難しくなったりすることも生じている。新潟大学では、これらに対する経済支援も含めた独自の新たな学生支援「新潟大学新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」をスタートさせた。授業料免除、特別奨学金の給付、修学支援貸与金などの從来支援に加え、授業料等の納付期限の延長や新型コロナ対策緊急支援金(貸与)などの新規支援が盛り込まれている。

「これは、短期から中長期までを考えた学生への学修支援と経済的な支援を行うものです。新潟大学にはもともと経済的理由により修学が困難な学生たちのための支援制度がありますし、授業料免除もあります。コロナウイルス感染症の現状を考え、中長期的に見ると、立たないという現状に鑑み、短期集中型で終わらぬ長い期間継続した支援が可能な仕組みを作ることがますます大事と考

えました」(牛木辰男学長)
また、アルバイトができなくなるという学生に対しては、「労働の対価として出されるお金」という観点から、学内でのアルバイト提供を秋以降に検討している。

さらにサポートパッケージ対応のため、新型コロナウイルス感染症による様々な問題を抱えた学生の声を聞くために「新型コロナ対策緊急学生サポート窓口」が開設された。様々な自肃状況のために、どのように日々を暮らせばよいか悩んでいる学生は少なくない。窓口にいる学生の中には、「家庭の急激な経済状況の変化により、授業料が払えるか分からず、不安を抱えた人もいました。ま

「一番多い相談は金銭面の問題です。声を寄せた学生の中には、『家庭の急激な経済状況の変化により、授業料がない』など、学生がいない、キャンパスを歩いてもそもそも会わないので、新入生にとってでは人との出会い場がない』など、話す人がいない』など、

学生がいない、新歓活動も行われていないので、新入生にとってでは人との出会い場がない』など、話す人がいない』など、

依然続くと予想されるコロナ禍 中長期的な観点を大切にした 支援で学生をサポートする



学務部学生支援課
玉木佑季さん



新潟大学 牛木辰男 学長



講義室に活気が戻る日を望む

コロナ禍において重要なのは正しい知識を持つこと。その上で知恵を持ち寄り、工夫していくことを続ける。

「現在、新型コロナウイルスの主な感染要因は接触と飛沫感染だと言われています。つまり、それを避けるように、気を付けて生活すればよいのです。屋外で周囲に人がいなければマスクを外してジョギングや散歩をしても良いわけです。自然や災害にも言えることですが、無暗に恐れて萎縮してはいけません。私は“正しい知識を持つこと”が大切だと考えており、この時代を経験した世代とは違う価値観や考え方方が身に付くでしょう。それは必ず将来に生きると思います」

現在の状況下において、私たちが思うのは「今までの当たり前がいかに貴重で、当たり前ではなかったのか」ということだ。顔を見せ合い向かい合って食事をし、肌をふれあい支え合って人生を語る。それはとても難しいし、貴重なことであった。だからこそ、この状況が収束したことが大切なではないか。

「マスクは、自分のためだけではなく他人のために着用するもののステイホームも、新しい生活様式も同様です。煩わしさとストレスを感じながらも、人につぶさないたることは、その貴重さを本当に感じることができます。この状況が収束した際には、その貴重さを本当に感じることができます。それは、この状況が受け入れ、全員で守っている日本人は、世界と比較しても素晴らしい民族です。そして新潟大学の学生は生懸命にそれを守ってくれて

コロナ禍において重要なのは正しい知識を持つこと。その上で知恵を持ち寄り、工夫していくことを続ける。

「現在、新型コロナウイルスの主な感染要因は接触と飛沫感染だと言われています。つまり、それを避けるように、気を付けて生活すればよいのです。屋外で周囲に人がいなければマスクを外してジョギングや散歩をしても良いわけです。自然や災害にも言えることですが、無暗に恐れて萎縮してはいけません。私は“正しい知識を持つこと”が大切だと考えており、この時代を経験した世代とは違う価値観や考え方方が身に付くでしょう。それは必ず将来に生きると思います」

現在の状況下において、私たちが思うのは「今までの当たり前がいかに貴重で、当たり前ではなかったのか」ということだ。顔を見せ合い向かい合って食事をし、肌をふれあい支え合って人生を語る。それはとても難しいし、貴重なことであった。だからこそ、この状況が収束したことが大切なではないか。

「マスクは、自分のためだけではなく他人のために着用するもののステイホームも、新しい生活様式も同様です。煩わしさとストレスを感じながらも、人につぶさないたことは、その貴重さを本当に感じることができます。この状況が受け入れ、全員で守っている日本人は、世界と比較しても素晴らしい民族です。そして新潟大学の学生は生懸命にそれを守ってくれて

知的好奇心を最大限に發揮 新しい価値観や考え方が 必ず将来に生きる

います。新しい行動のスタイルがえたわけですから、その範囲内で自由に遊ぶことができるはずです。ピンチはチャンスという言葉があるように、この時期はこれまでの社会や生活など、今まで普通だと思ってきたことを考え直してみる絶好のチャンスです。ぜひ有効にこの時間を使ってもらいたいと思います」

「この機会に”日常の大切さ”について考えてみる良い機会かもしれません。大学で学んで、もっと深く考えてみたいと思っていたこともあるのではないかでしょうか。せっかくの時間を読書に打ち込んでいましたが、結果として自分たちの想像以上の範囲に声を届けることができました。オンライン新歓によって停滯していた学生間の交流を、少し有利な状況ではなかつたのですが、結果として自分たちの想像以上の範囲に声を届けることができました。オンライン新歓については必ず協力をいただきました。自粛期間だったため情報拡散については必ずサークルが合宿時に利用する株式会社コスモツーリストさんの公式ツイッターでも複数回に渡り告知の広報で協力するなど、大学と学生の連携で広められた。

「さらには新潟大学の部活やサークルが合宿時に利用する株式会社コスモツーリストさんの公式ツイッターでも複数回に渡り告知の広報で協力するなど、大学と学生の連携で広められた」

開催情報は参加した各団体によるSNSでの拡散だけでなく、学生支援課がYouTubeアカウントの貸し出しや学務情報システムを用いた広報で協力するなど、大学と学生の連携で広められた。

学生サポート窓口に寄せられた学生の声

新しい友達はできましたが、サークルに入つても、Zoomでのミーティングしかできないなど、想像していた大学生活とのギャップを感じています。学費の足しにしようと考へていたアルバイト収入がなくなつたことで経済的な不安も生じましたが、新型コロナ緊急支援金をいただきました。大学で学び続けられることに感謝していきたいです。

歯学部
1年 女子学生

私の学部では1学期中に開催できない実習系の授業がいくつもあり、1学期当初は必修単位を揃えられるのか不安を感じていました。経済的な不安もありましたが、早い段階で支援策について提示して頂いたお陰で気持ちが楽になりましたし、支援金申請後の想像以上にスピーディーな審査、振込により、すぐにその恩恵を受けることができました。

理学部
3年 女子学生

みは想像以上に深刻です。”人との声はよく聞きました。この状況に戸惑いを感じているのは新入生を迎える上級生も同様だったと思います」

考えられたのが「学生ピアサポート」だ。これは学部の1・2年生が、上級生にオンラインで相談ができるというものです。1・2年生は学生生活に必要な学内外の様々な知識についてアドバイスを受けられる。「学生生活に必要な申請はどこに行けばよいのか」「日用品はどこで買えるのか」などに応える先輩の声には親近感があり信頼性が高い。そこで得た情報は彼らについて

リアルな声から 生まれた オンライン新歓

悩みを抱えているのは上級生も同様だ。部活やサークルに所属する学生にとって春は新入生歓迎の大切な季節だった。各団体の対面での勧誘ができないなか、『Shindai Club Meeting』というオンライン

での新歓イベントが6月6日・7日に行われた。これは遠隔会議システムZoomを用いたもので、計57団体が参加し、二日間で約700名の新入生が参加した。企画したのはクラシックギター部副部長の石坂修平さん(教育学部3年)と樋口響さん(農学部3年)だ。

「黎明祭をはじめとした各種新歓イベントの中止を受け、安全な形で各団体の活動紹介ができるよう企画しました。チャット機能を用いて質問を募集するなど、先輩と後輩が交流できる良い機会になったと思います」(石坂)

「このような事態だからこそ新しいことにチャレンジしたいなと思っています。自分たちだけでなく、様々な人たちと協力することの大切さに改めて気付けました。新入生のみなさんもぜひ挑戦することを忘れないでいてもらいたいと思います」(石坂)

正しい知識と 知的好奇心が 成長へつながる

状況に応じて「するべき」とは何か」「どう行動するべきなのか」を発見し、実践していく学生たち。それをしっかりとサポートする大学の取組。新型コロナウイルス感染症との闘いが長期に渡ることが予想されるなか、どのような学生生活のあり方と、それを支える大学の姿が求められるのか。再び牛木辰男学長に聞いた。

「学生時代の経験は全てに意味があります。ストレスや不安を感じる人も多いでしょう。だからこそいつも信頼できる人や友人に相談してほしいですし、新型コロナ対策緊急サポート窓口も活用してほしいと思います。そして、こうした中につつでも、学生のみなさんは知的好奇心を伸ばして、実りある生活を送ってほしいと思います」



『Shindai Club Meeting』を企画した石坂修平さん(左)、樋口響さん(右)

新潟大学大学院医歯学総合研究科細菌学分野
松本壮吉 教授

新型コロナウイルス(COVID-19)のワクチン開発が国内外で進むなか、大学院医歯学総合研究科の松本教授を中心としたグループの研究も日本医療研究開発機構(AMED)の補助事業として採択。国が支援する形で、教授が研究してきた「組み換えBCG(rBCG)」技術を利用し、新型コロナウイルスに対して高い予防効果を示しつつ、BCGと同様に安全で生産コストに優れたワクチンの開発を目指すというのだ。「もともとは結核の薬を新たに作ろうと研究してきた技術なんですが、BCGのアジュバント活性やその効果の持続性をベースに、COVID-19に効果的なワクチンが作れる可能性があり提案させてもらいました」。遺伝子組み換えを伴うため文部科学省の承認も必要であり、開発までにはまだ時間が必要なようだが、「こういう状況なので、お役に立てるようにやってみようと思う」と話す松本教授。「あと、僕ひとりではないので——新潟大学の中でも、ウイルス学やSARSの遺伝子を解析するインフォマティクス学など、違う分野の専門の先生と一緒にプロジェクトに向かっていて。それが良かったし心強いですね。また申請ではURAに大変お世話になりました」。新潟大学にもこんなチームがいるのは頗る嬉しいかぎり。今後の研究と成果に期待したい。



新潟大学基金

個人	塙川 由雄 鈴木 香奈子 園田 美江子 竹田 徹朗 寺井 崇二 内藤 真 中山 未来 野村 章子 濱田 一成 福島 寛 菅田 忠義 峯岸 晴正 森 俊彦 吉岡 友子 渡辺 輝浩	塙原 祐太郎 鈴木 しのぶ 大黒 幸恵 竹之内 辰也 寺尾 巴哉子 助産師 中川 名越 直子 野村 智幸 早坂 尚雄 福原 紀章 本間 隆 宮島 嘉道 森川 政嗣 山岡 克郎 吉澤 浩志 渡辺 直純	清水 一恵 清水 武彦 高井 聰 竹之内 辰也 寺久保 洋次 中川 洋一 長倉 成憲 成石 知仁 長谷川 博也 半澤 信二 細井 秀紀 前田 研一 武藏 良二 八百板 正樹 柳本 利夫 山口 有子 吉田 典正 渡辺 英伸	下妻 大毅 鈴木 翼 高橋 邦明 武樞 信幸 寺久保 洋次 中川 洋一 長倉 成憲 成石 知仁 長谷川 博也 樋口 義嗣 堀田 真之介 松田 健 武者 礼三 村井 英四郎 柳本 利夫 山口 芳雄 米岡 有一郎 渡辺 雅晴	申 将守 須藤 弘幸 高橋 すみ 高橋 理 遠山 岩雄 富永 真琴 友坂 文則 中塚 詠子 西山 二三男 波多野 忠雄 樋口 義健 堀切 文子 松榮 妙清 丸田 道男 目黒 恵子 矢口 健二 矢口 貞夫 山崎 秀 米岡 宏一 渡辺 美智子	末吉 邦 関秀行 高橋 ミツエ 高橋 慶一郎 友坂 陽子 中塚 茜里香 仁平 剛二 野崎 真 服部 簡 服部 祐樹 樋口 義健 堀切 文子 松榮 妙清 丸田 道男 目黒 恵子 矢口 健二 矢口 貞夫 山崎 秀 米岡 宏一 渡辺 美智子	杉田 洋子 曾束 洋平 田口 厚宏 土田 恵美子 内藤 絵里香 中村 宏志 野田 匠利 馬場 肝作 福士 祐治 本多 忠幸 南野 徹 森 恭一 矢澤 裕美 矢田 昌三 山本 善政 星野 力 宮村 治男 矢田 昌三 吉塚 康一 米岡 有一郎	杉本 愛 曾束 洋平 武居 智美 土田 恵美子 内藤 絵里香 中村 宏志 野田 匠利 馬場 肝作 福士 祐治 本多 忠幸 南野 徹 森 恭一 矢澤 裕美 矢田 昌三 山本 善政 星野 力 宮村 治男 矢田 昌三 吉塚 康一 米岡 有一郎	匿名希望90名
----	--	--	---	---	--	--	--	---	---------

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。
令和2年度は、「輝け未来!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」に支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R2.3~R2.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)

個人	赤井 純治 今井 伸治 金子 双男 佐藤 直明 曾我 津也子 新田 初美 星野 力 矢田 昌三 吉塚 康一	飯泉 俊雄 大島 康義 黒田 喜久二 佐藤 昌子 高野 俊郎 仁平 剛二 前川 博 山崎 秀 米岡 有一郎	五十嵐 文雄 大畠 登代 島 和宏 白岩 邦俊 竹田 弘 庭山 昌俊 眞島 幸平 村田 雅史 山下 威士 米川 宏一	泉 雅之 大村 篤子 計良 和英 島 和宏 高橋 クニ 橋本 良崇 丹野 尚 室賀 美紀子 森 登志男 山下 威士 渡辺 英伸	伊藤 忠雄 岡崎 実 岡村 光展 小林 公一 小林 義夫 鈴木 裕美子 鈴木 好文 鈴木 俊雄 鈴木 裕美子 鈴木 俊彦 森川 政嗣 吉江 弘正	伊藤 雅章 荻 美津夫 小林 義夫 小林 義夫 小林 義夫 鈴木 俊彦 鈴木 俊彦 鈴木 俊彦 吉田 滋	伊藤 道一 岡崎 実 小林 義夫 小林 義夫 小林 義夫 鈴木 俊彦 鈴木 俊彦 鈴木 俊彦 吉田 祥太	伊藤 稔行 荻 美津夫 吉田 克起 佐藤 純一 笹川 壽昭 曾我 純一 須藤 弘幸 西澤 薫 成田 賢 樋口 義健 富永 真琴 畠野 正規 宮島 嘉道 道又 かおる 八木澤 久美子 吉田 祥太	柏木 道子
----	---	---	---	---	---	--	--	---	-------

団体 介護老人保健施設越南苑看護部 一般社団法人柏崎薬剤師会 一般社団法人加茂市医師会 医療法人社団かわさきこどもクリニック

株式会社川崎商会 木山産業株式会社 医療法人さくら皮膚科医院 医療法人社団慈眼会三条眼科

一般社団法人新発田北蒲原医師会 新発田市立猿橋中学校生徒会 新発田病院小児科スタッフ一同 一般社団法人上越薬剤師会

株式会社大光銀行『SDGs私募債「もっと笑顔に」』 新潟市地域医療推進課・地域包括ケア推進課

株式会社中越加工 株式会社トップライズ ながおか医療生活協同組合 株式会社中野科学

新潟県厚生農業協同組合連合会 公益社団法人新潟県薬剤師会 新潟県立がんセンター新潟病院小児科有志(愛ビス基金)

新潟県立新発田病院看護部 新潟市急患診療センター 新潟市小児科医会 新潟市役所保健師有志一同

新潟大学医歯学総合病院募金箱 にしき内科消化器科西崎浩 万代シティ耳鼻科今井昭雄 ピアノ教室リエート

株式会社BSNアインネット 株式会社ブルボン 北越工業株式会社 南魚沼市福祉保健部保健課

令和元年度看護師長会 匿名希望4団体 匿名希望4団体

新潟大学サポーター俱楽部

■目的 繼続して新潟大学を支援するため、俱楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R2.3~R2.5寄附入金分)※(50音順 敬称略)

個人	小林 和好 弁護士法人青山法律事務所 株式会社植木組 太平ビルサービス株式会社新潟支店 株式会社新潟ケンペイ 富士タクシー株式会社	グリーン産業株式会社 東京海上日動火災保険株式会社新潟支店 新潟メスキード株式会社 株式会社ニッセイコム公共システム事業部公共営業本部 株式会社山口設計	有限会社シティバス 株式会社南雲製作所 株式会社ニッセイコム公共システム事業部公共営業本部 大竹 雅広 長部 巍	秋葉 萌花 飯嶋 静香 石田 武裕 今成 卓而 大関 一 岡部 幸祐 加藤 健一 川島 寛之 公平 健治 近藤 季也 佐々木 裕道	安達 恵子 井口 清太郎 市辺 幹雄 今仁 大介 太田 浩文 小川 洋平 加藤 政夫 川瀬 康裕 木田 勝典 小島 雅之 奥水 崇鏡 斎藤 浩一 斎藤 秀俊 佐藤 真司	安達 千春 池内 健 伊藤 美明 今村 勝 太田 雅彦 大竹 雅広 長部 巍 金澤 喜平 木村 喜恵子 小島 雅之 小須賀 基通 斎藤 有子 坂上 充 佐藤 宏之	阿部 咲子 池田 博 伊藤 智穂 上杉 圭吾 大塚 道人 小田 繁 金子 昌弘 黒木 美恵子 小林 勇 坂上 充 佐藤 富貴子	阿部 剛 石川 時紀 伊藤 雅章 牛木 卓男 大島 勇人 大嶋 康義 岡崎 正和 笠原 美和 上村 朝輝 桑原 春洋 小林 義夫 佐々木 友美 佐藤 安男	荒井 公雄 石田 滋 井上 千秋 大嶋 康義 岡崎 実 笠原 靖史 川崎 昭一 計良 和英 小山 喬資 佐川 富士雄 佐々木 友美 澤田 公和
----	--	--	--	---	---	--	---	---	--

新潟大学古本募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただく、その査定額が新潟大学に寄附されます。

寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者 (R2.3~R2.5寄附入金分) 〈個人〉17名 〈団体〉6団体

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳しい情報をご覧いただけます。

問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室

[TEL]025-262-5651・6010・6356 [e-mail]kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

[HP]<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

G-DORM短期留学受入プログラムがマイナビインターンシップアワードで優秀賞を受賞しました



本学工学部と公益社団法人つばめいとが連携して取り組むG-DORM短期留学受入プログラムの国際グループワーク・インターンシップが、マイナビ第3回「学生が選ぶインターンシップアワード」において優秀賞を受賞しました。この表彰は、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシッププログラムを表彰する日本最大級のものです。第3回となった今回は、全国より361法人計482プログラムの応募があり、大賞1法人、文部科学大臣賞1法人に次いで、本学が優秀賞6法人のうちの1法人として選定されました。また、大学が表彰対象に加えられてから初めての表彰となりました。本学工学部では、大学の世界展開力強化事業「メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリ型融合教育による理工系人材育成」(略称G-DORM)の一環で、王立プノンペン大学(カンボジア)、ラオス国立大学(ラオス)、チュラロンコン大学(タイ)、ハノイ工科大学(ベトナム)の4大学と連携し、短期(10日程度)・中期(2ヶ月)・長期(6~12ヶ月)の受入・派遣プログラムを実施しています。G-DORMの留学プログラムでは、本学とメコン地域4大学の理工系学生が、学年縦断・分野横断・



多国籍学生チームを結成し、主に新潟とメコン諸国において、新潟地域関連企業等における課題解決型のグループワーク(以下GW)・インターンシップに取り組みます。これにより、「地域協働の産学連携視点」・「融合分野的発想力、国際性、リーダーシップ」・「産業変遷の一貫的プロセスの知見」を涵養し、「地域創生課題解決能力と融合的視点をもつ理工系グローバル・リーダー人材」を育成します。今回受賞したのは、短期留学受入プログラムにおいて、燕市と共に産業振興活動に取り組んでいる「公益社団法人つばめいと」と本学工学部が連携し、「国際展開インターンシップ in 燕市」と題して2019年8月に実施したGWインターンシッ

プです。メコン諸国連携4大学からの留学生17名と本学からの学生11名が混在する6グループが、燕エリアの6社の企業と協働したGWインターンシップにおいて、各企業から提示された課題への解決提案にグループ活動で取り組みました。今回の受賞では、事前に仮説を設定し、現場体験を通じて仮説の検証を行った後に提案が行えている点、社会人基礎力を基にした事前学習の充実、地元企業との密接な関係構築が行えている点などが評価されました。なお、今回の受賞プログラムの実施に当たっては、公益社団法人つばめいとを始め、燕市内の行政や企業の皆様方から、多大なご支援とご協力を賜りました。

Topics

ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた(小児医療宿泊施設)の建設にご賛同をいただき
誠にありがとうございます。おかげさまで、6月1日現在、1,300人(団体)を超える皆様からご寄附を
いただき、約1億3千万円となりました。ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたの完成を待っている
子供たちと家族が一日も早く利用できるよう、改めてご支援を賜りたくお願い申し上げます。



ご支援の声

【患者さんご家族様から】

- 私のこどもも、小児病棟で一年近く入院生活を送りましたので、病棟の限られた空間で過ごす辛さを知っています。子どものベッドで添い寝して足を曲げて寝る不便さ、いつも人の気配のある生活、かなりのストレスでした。このドナルド・マクドナルド・ハウスができることで、どうか子ども達とご家族が少しでもくつろいで、明るい気持ちで過ごせるように願っています。
- 私の三番目の子どもも、昨年夏に新潟大学病院でお世話になりました。6日間で亡くなってしましましたが、もしかしたら長期の入院も予想されていました。入院する中で、短い間でも子どもたちと離れて生活しなければならないことはとても辛いことです。今もなお入院されて、家族バラバラに生活されている方がたくさんいらっしゃると思います。少しでも家族一緒に時を過ごしてもらいたい、そういう思いで、わずかながらご寄付させていただきたいと思いました。
- 以前に娘が貴学の大学病院にお世話になりましたが、一時外出もかなわないまま、天国へ旅立ってしまいました。このような施設を建設していただけること、本当に感謝しております。

【一般の方から】

- 少しでも早く「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」で、ご家族をお迎えできますように!

